



てつがくカフェ

＝第67回＝

てつがくカフェとは？

「てつがくカフェ」は、わたしたちが普段、当たり前だと思っている事柄から、いったん身を引き離し、「そもそもそれって何なのか」といった問いとして投げかけます。そして、ゆっくりお茶を飲みながら対話し、自分の考えを逞しくすることの難しさや楽しさを体験するものです。

<http://www.smt.jp/projects/cafephilos/>

「てつがくカフェ」で行われるさまざまなイベントのスケジュールやこれまで開催されたイベントのレポートを閲覧できます。

「考えるテーブル てつがくカフェ」は、これまで7年にわたり（延べ65回）震災に関連した哲学対話の場をひらいてきました。毎回事前にテーマを設定（共有）し、参加者どうしの丁寧な対話をもとに、震災にかかわる問いや課題に伝えてきました。震災から8年目を迎えた今、その長い時間の経過とともにそれぞれの震災に対する考え方や関心のあて先、さらにはそれらに対する意識の強さにもさまざまみな（違い）が生じつつあります。

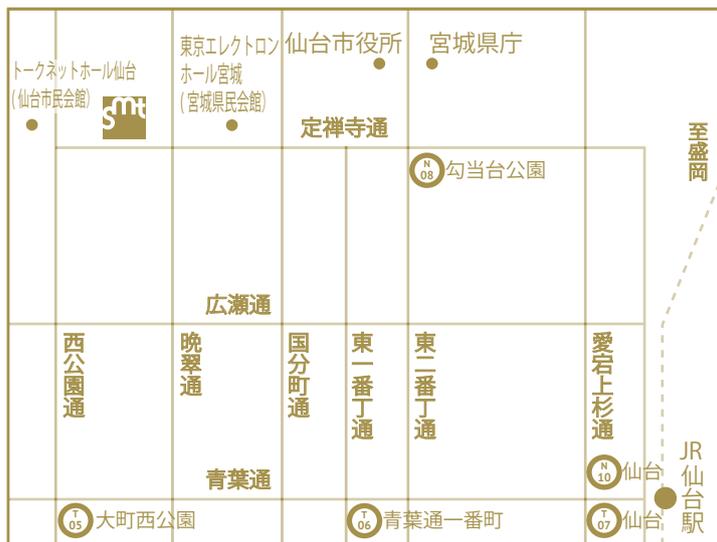
助成：一般財団法人 地域創造



せんだいメディアテーク

仙台市青葉区春日町 2-1

022-713-4483



※この用紙はリサイクルできます

そこで、「考えるテーブル てつがくカフェ」では、そのような個々人のあいだにある〈差異〉にこまやかに対応し、また被災地の今の空気感や気分にもいつそう寄り添っていきけるように、今年度からはあえて事前にテーマを設けず、参加者の方々とその場で毎回テーマを決めながら対話を深めていきたいと考えています。あたらしい「てつがくカフェ」の取り組みがはじまります。みなさま、ぜひご参加ください。

2018年9月23日（日）15:00-17:30

せんだいメディアテーク 7f スタジオ a

申込不要・参加無料・直接会場へ

主催：てつがくカフェ@せんだい／せんだいメディアテーク

お問い合わせ：mmp0861@gmail.com（てつがくカフェ@せんだい・西村）

前回てつがくカフェのレポート

第 66 回 てつがくカフェ / 2018 年 7 月 15 日 / メディアテーク 7f スタジオ a

7 月のてつがくカフェはテーマを設けずに行った初めての回でした。そこでははじめに、震災をめぐる自由な意見を出し合い、その後、キーワードを抽出しながら問いを設定し、対話を深めていきました。そして最後に、次回につなげていきたい問いについて話し合うような流れで進めていきました。

対話のキーワードとしては次の 3 つの言葉が挙げられました。

- ・消化
- ・考えていなかった
- ・分断

さらにここに挙げられたキーワードをもとにして、対話の焦点となる問いが次のように設定されました。

- (i) 消化することと、忘れることの違いは何か
- (ii) (社会やシステムを) 信頼していること、信用していること、信じていること、それについて考えていないことの違い
- (iii) 私たちはどうやって横のつながりを得るのか

注目されたキーワードや問いからも見て取れるように、当日の対話には 3 つの本流があり、それらが相互に交差したり、支流に分かれたりしながら流れていった印象です。対話のひとつの大きな流れは、震災の経験に対する私たちの態度を、生物学的な過程として語ることに関わるものです。対話のこの流れは、震災から 7 年経って、ようやく震災後の経験を「消化」し「糧」にして、震災から卒業することができたという発言を発端にしています。震災やその後の経験を「消化する」という言い方は、それらを「忘れる」と言うとはまた違った響きがあります。そこで出てきたのが (i) の問いです。

この問いには、当日の最後になって、次のような応答がありました。震災の経験を「消化」するということは、震災の経験から私たちが取り入れたものと、「排出」されたものがあることを意味しています。この点で、震災の経験を「消化する」ことは「忘れる」こととも異なります。というのも「忘れる」場合には、忘れられるものは思い出されないだけで、そこにありつづけるから、という応答です。また、大事なことは社会が何を取り入れ、「同化」すべきかという問いではないかとの指摘もありました。このことから「何を消化／取り入れるべきか」、「社会は何を食べるのか」といった問いが次回に取り上げたい問いとして出てきました。

もうひとつの大きな流れは、社会や国、「システム」に対する信頼や信用にかかわるものです。この対話の流れは、震災直後には感じ

ていたが 7 年経った今やすっかり失われてしまった悲しさや不安といった感情に対し、「社会」、「システム」、「国」といったものへの不信感が変わらない、この違いは何か、という問題提起から出発したものです。またこの問題提起には、社会や「システム」への信頼や信用が失われたことで、それまで自分が何も「考えていなかった」ことに気づいたという発言が続いていました。この発言をきっかけにして、当日の対話では度々、震災前には社会システムを信頼していたわけではなく、考えていなかっただけではないか、信じていることと信用していることは違うのではないかと、といった (ii) のかたちでまとめられる問いが出てきました。

この対話の流れを引き継いで、次回に考えたい問いとして、そもそも「何を考えなくてはならないのか」、また別の言い方をすれば、「何について『てつがくする』べきか」という問いが挙がりました。

3 つ目の大きな流れは、「分断」というキーワードにかかわるものです。この流れは、「3・11」は、それ以前の間人関係や役割が解除されて、「裸のいち存在」が試される出来事だったという発言が発端です。この指摘とともに (iii) の問いも挙げられ、分断というキーワードも出てきました。とはいえ、このキーワードを巡って話された内容は極めて多様でした。同質的な集団が社会から分断されているという指摘が一方にあれば、個人主義によって個人々が互いに分断されているという指摘もありました。そこで個人と「コミュニティ」の分断、個人と「社会」の分断を区別してはどうかという提案があり、そのうえで、「これからの社会はどうなるのか」という問いが、次回取り上げたい問いとして挙げられました。また「遺族感情」を「社会」がどのように、どの程度受け取るべきかという問いもありました。

7 月の対話の中で、次回（仮に参加するとしたら）話したい問いとして参加者から挙げた問いを最後にもう一度まとめておきます。

- ・何を消化／取り入れるべきか
- ・社会は何を食べるか
- ・何を考えなくてはいけないのか
- ・遺族感情
- ・分断している／していない
- ・これからの社会はどうなるのか

次回のてつがくカフェは 9 月 23 日です。7 月の対話の内容とここに挙げた問いを踏まえながら、対話を進めていけたらと思います。